



ケララでは毎日どこかの村で寺院祭祀舞踊ティーヤムが行われている。お面のような化粧で踊る姿に圧倒される

〔インド〕

ケララの古典舞踊劇

文写真 石川 武志

インドの南西に位置するケララ州。美しいビーチや、バックウォーターと呼ばれる水郷地帯、ヤシの林や水田といった自然の恵みと、伝承医学アーユルベーダやカタカリなどの古典舞踊劇で知られる。歴史的にも、世界各地から商人が象牙やスパイス、お茶などの交易を求めてやって来て、独特な文化がはぐくまれた地域だ。

ケララ州の商業都市コートンから70キロほど南に、バツクウォーターの基点となるアレッピーという町がある。運河を中心発展した町で、ヤシやバナナ、水田の中をクモの巣のように水路が伸びている。ハウスボートと呼ばれる屋形舟でのん

びりと過ごす一日はケララならではの極楽だ。地元民が使う水上バスだつて楽しい。小さな村々に立ち寄り、家路に着く子どもたちや野菜を抱えた女性が乗り込んできて、現地の暮らしを垣間見ることができる。

コートンから北東に120キロのトリチュールは、ケララ文化の都といわれ、数多くの寺院祭礼や古典舞踊劇を楽しめる。町の中心にはヒンドゥー教寺院ヴァダックナタン寺院があり、毎年4月ごろに行われるブーラム祭は、何十頭ものゾウの行列が有名だ。これらの寺院にある演舞場では時々、カタカリ、クティヤツタム、ナンギヤールクー

カタカリは仮面のような化粧と細かな指の動き、大きく膨らんだスカートのような衣装の舞踊劇。起源はラーマやクリシュナの神話を描いた舞踊劇で、民族的な舞踊や劇、カラリパヤットという武術が影響して洗練され、現在のカタカリが完成した。

クティヤツタムは2000年の歴史を持つといわれる世界最古のサンスクリット劇。俳優は代々「チャキヤール」族のみによって受け継がれ、上演も寺院内の劇場でしか許されないなど、伝統の重さゆえに消滅の危機に瀕していた。ナンギヤールクートゥは、広い意味でクティヤツタムに属する演劇の一つ。日本人で唯一のクティヤツタム・アーティスト、入野智江ターラさんが現地で長年活躍している。

トリチュールで見逃せないのが

ケララ・カラマンダムというインドを代表する芸術学校だ。国内外から来た優秀な生徒が全寮制の施設で、古典舞踊劇、声楽などの厳しい訓練を受けている。

※2006年4月に「無形文化遺産の保護に関する条約（無形遺産条約）」が発効したことにより、今年11月に「人類の無形遺産の代表的な一覧表」に記載された。



ブーラム祭で、イルミネーションで飾られた寺院とゾウ



舞台の出番を終えた小さな踊り子たち。伝統的な踊りは、子どものときから習い始める



ケララの象徴的な風景バックウォーター（水郷地帯）。客室やキッチンのあるハウスボートに乗っての旅は格別だ



クモの巣のような水郷地帯を水上バスで進むと、買い物帰りの女性や学校帰りの子どもたちが乗り込んできた



フォート・コチの伝統漁法の風景。人々の憩いのビーチでもある



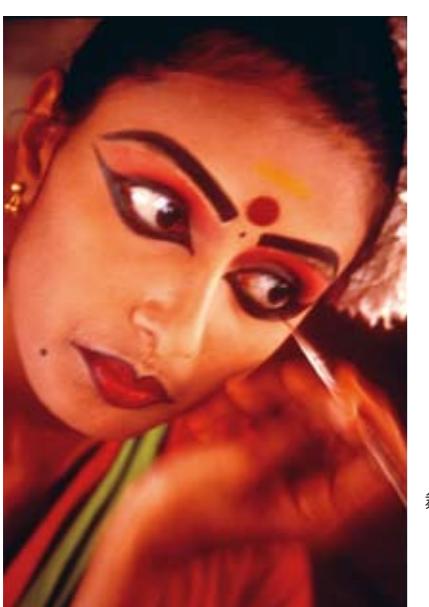
激しいドラムの中、トランスになりながら、火が燃えるつぼを腰みのに付けて踊るティーヤムの演者



ナンギャールクートゥを演じる日本人の入野智江ターラさん。ナンギャー
ルは「女」、クートゥは「演技する」を意味し、女優の演じる一人芝居だ



ケララ・カラマンダムの生徒たち。張り詰めた空気の中で、汗を流しながら練習に励む
光景は感動的だ



舞台の前に入念に化粧する踊り子。大きな目に色鮮やかな化粧がエキゾチック



出番を待つカタカリの演者。化粧や着付けなど、準備に2時間はかかる